

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290200035		
法人名	一般社団法人ぶな会		
事業所名	須崎つわぶき荘		
所在地	静岡県下田市須崎1756-1		
自己評価作成日	令和5年9月17日	評価結果市町村受理日	令和5年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&UjyosyoCd=2295300095-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の好みや嚙下状態に寄り添った食事を提供できている。ご利用者の栄養状態が良好に保てている。 ・医療連携体制が整備されている。隔週主治医が訪問診療を行い、医療方針を示している。その医療方針を基にカンファレンスを実施、日々の看護・介護に反映している。 ・理念に沿った「ご利用者の心と身体に寄り添った、優しい介護」を目指し日々研鑽している。満床6名様ならではの、アットホームな環境づくりを心掛けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>協力医とは車で10分程という好条件を持ち、心と体に寄り添った介護の推進を旨とする事業所として歩みを重ねていて、年を追うごとに頼もしさが増しています。その体制を十二分に活かして昨年度は3名のお見送りを無事終え、職員と利用者家族との結束も改めて確認されています。高齢の為退職に至った前・職員が毎月テーマを決めた作品づくりなどを提供するレクボランティアとして訪れていることも事業所の温かな人間関係を裏付けています。事業所でも毎日の体操のほか時節行事にも心を砕き、7月の夕涼み会では女性は浴衣、男性はアロハシャツで、食事は県外から取り寄せた鰻で楽しんだという日もありました。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者お一人お一人様の尊厳を大切にし、心と身体に寄り添った優しい介護」を目指している。 毎日2回のミーティングや隔週のカンファレンスで理念を確認、共有できている。	個別面談で理念のすり合わせをおこない、隔週のカンファレンスでも「理念に照らした介護を」と話すのは慣習となり、開所当初から「心と体に寄り添った介護」はぶれることなく全職員に浸透しています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方、民生委員様から古布や野菜、お菓子など提供いただいたり、ボランティアさんが歌会や工作会を企画、実行して下さる。地域の歯科医院様からマスク等のご寄付を頂いたり、地域の方々に常に支えられ運営できている。	雑貨屋からは食器、歯科医からマスクが届き、また「(利用者の)家族から聞いたんですよ」と近隣の飲食店からタオルの寄付があったこともあり、地域から応援される事業所として力強い発展を遂げています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から、御家族の介護についてご相談を受けたり、グループホームや他の介護施設がどのようなところか説明させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により対面式の会議は開催できていないが、コロナ5類移行を受けて近く開催予定。当ホームの現状や感染予防策については書面で報告を行っており、複数回に一度、メンバー様に書面や口頭でのご提案・ご指導をお願いしている。	5類に移行なものの安全面を優先して書面開催をおこない、変わらず質問用紙も同封して返信も得ており、双方向のやりとりを叶えています。またメンバーの民生委員は菓子など携えて訪問くださる事もあります	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所には、手続き面のご指導をいただくだけでなく、運営における悩みや疑問についても常に寄り添っていただいている。改善点についても、具体例をあげて丁寧に指導いただくため、安心したホーム運営につながっている。	運営についての相談ではメールで資料を送ってくださったこともあり、市役所には毎月出向くことで親しみの伴う関係を築いています。また社会福祉協議会からは入所者の問い合わせもあり、福祉センターとも関係が良好です	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を3か月に1回開催し、身体拘束ゼロの指針に沿ってご利用者個別の検討を行っている。また、身体拘束についての研修を年2回実施し、職員の正しい理解を促している。また、新入職員には行動制限についての研修を行っている。	身体拘束の対象となる症状はありませんし、原則しない方向で取り組んでいます。研修に参加できない職員には資料を申し送りにはさみ、チェック表で個々の確認をとっています。新人研修も理事長自らおこない、安心介護に繋げています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、情報を共有している。また、職員の人配置を基準より多くする日や時間帯を設けることで、スタッフ一人一人のストレス軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人様がついているご入所者がいるため、常に関係者様と連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時、重要事項説明書の改定時にはご納得いただける説明を心掛けている。また、ご契約後にも御家族・ご後見人様が気になることについては、誠実にお応えできるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常にご利用者中心の、その方らしい生活を実践できるようサポートすることに努めている。また、運営推進会議には御家族代表の方にご参加いただいている。	軽度な利用者が増え、家族からは体操やバルコニーでの日光浴、「一緒に散歩したい」との要望が挙がっています。体操は毎日、日光浴も個々に丁寧に実施し、歩行困難な散歩の希望者には2人対応で支援しています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には、その職種に関わらず日々のミーティング、隔週のカンファレンス、職員会議などで発言してもらい、日々の介護の質向上に活かしている。	以前は幹部主導でしたが、本年度の夕涼み会は職員提案で浴衣などの持ち込みのなか推進され、成長を感じる記念すべき行事となっています。月2回の会議でも職員からは小さな気づきが挙がっていて、安心です	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員のベースアップ、功労者の昇格、有給休暇は各年ごとにすべて全員に消化してもらうなど、待遇面では積極的な改善に取り組んでいる。(小規模のため、限界はある中で)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1名の職員(キッチンリーダー)が実務者研修を受講。隔月で内部研修を行い、ケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表引継ぎ以降、徐々に他事業所様との交流が出来てきたものの、コロナ対策もあり、勉強会などの取り組みは無い状況。ケアマネージャーにおいては、地域の勉強会に参加できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に看護師、ケアマネージャー、介護スタッフがご本人、ご家族の要望やこれまでの生活背景などを聴取し、ご入所時の不安の軽減を図り、スムーズにその方らしく過ごしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入所者の生活状況、身体状況などできるだけ詳しく、看護師、ケアマネージャーが聞き取りを行っている。小さなことでも報告や連絡を重ね、毎月の手紙では近況をご家族に報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者のご希望や身体状況に合わせ、身体機能保持のため整体師による訪問マッサージを導入している。また、訪問歯科、他の医療機関の受診のサポートも実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたむなどの軽作業を共に行うことで、「役割意識」を感じていただいているご利用者もいらっしゃる。また、スタッフ、ご利用者が共に生きるという理念のもと暮らしを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症等による御面会の制限は極力設けないため、お足を運んでくださる御家族も多い。御家族のお力には敵わないため、当然のことながら「共に」支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みとの「手紙のやり取り」や、馴染みの美容院での散髪等、サポートできる部分については積極的に努めている。また、ご自宅に同行して近くを散歩するなどのサポートも実施した。	在宅のときの介護支援専門員にビデオメッセージを送ったところ会いに来てくださったとか、コーラスグループ仲間が頻繁に面会に訪れるといった例があり、またターミナルの利用者家族は海外からも友人を招いています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間やレクリエーションの時間を利用し、ご利用者同士がコミュニケーションを図れるよう努めている。ご利用者同士での会話や笑い話が増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所(看取り)後もご家族とのお便りによる交流や、来所しての交流もあり、思い出を共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人お一人の生活のペースに合わせて起床、食事介助など行っている。ご家族からお聞きした生活背景なども、取り入れられることは極力取り入れている。	在宅での生活に近づけるように朝の味噌汁づくりや食器の片づけを手伝ってもらい、また掃除好きの利用者には職員と一緒に窓ふきをしたりと、1ユニット6人の強みを大いに生かした取組があります	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の生活状況、環境をご家族や前事業所のご担当者から詳しく聞き取りを行っている。情報は、職員間で共有し、介護・看護に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量、水分量、バイタル、排泄、特記事項を詳しく記入し、申し送りを行っている。身体状況については主治医、看護師に報告、相談を行っている。その方のADLや心情に適した介護の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが週1~2日現場に入り、ご利用者とお時間を共有、現況の把握やニーズの把握に努めている。カンファレンスでの情報や御家族からの情報、他スタッフからの聞き取りもあわせ、介護計画を作成、修正している。	介護計画は介護支援専門員が家族の要望を確認して作成しています。以前よりも出勤日を増やすとともに、隔週のカンファレンスで介護職員への説明、要望を取り入れ、変化があればその都度説明をおこなっています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録やバイタル表をもとに、隔週の主治医訪問診療時に報告している。そこで指示のあったことを記録し、その後2週間のケアに反映している。また、ケアマネージャーにより個人目標をわかりやすく掲示して、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への送迎や、歯科医、整体師との連携などニーズに合わせて柔軟に対応している。また、ボランティアさんによるイベントなど増やし、常に風通しのよいホームとなるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の整体師、ボランティアさん、訪問歯科等のご協力を仰ぎ、常にご利用者を中心とした、ご利用者本位の暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による訪問診療が隔週あり、常にご利用者のご状態を把握していただいている。緊急時には24時間体制で連絡を受け付けてくださり、非常に心のこもった医療、安心をご提供いただいている。	主治医が昨年より変更していますが、看取りもスムーズです。家族のほか、夜間を含む職員への指示も丁寧で安心な体制にあります。協力医は地域にある医院の為、「前からの主治医なのよ」という利用者もいます	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師をはじめ多くの看護師が介護にあたっており、介護職と共に日々観察し、ご利用者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医クリニックと地域病院のご連携の中で、お看取り、入院等に際して必要な情報共有がなされている。入院時は早期退院に向けて、病院相談員、看護師の方々と情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者・ご家族と話し合いを重ね、終末期に向けた方針を確認している。また、重度化や終末期に向けた指針を掲示し、ご家族、ご見学者が閲覧できるようにしている。主治医による力強いサポート、御家族による信頼をもとに、ターミナルケアが実現している。	昨年度3名のお見送りがあり、現在もターミナルで4ヶ月目の利用者がいますが、医師と連携して不足なく対応しています。契約時には「看取りができる状況です」と説明をおこない、終の棲家であることを家族に伝えていません	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変時には主治医、看護師への連絡体制が整っており、時間を問わず、迅速に対応出来る体制が整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を実施しており、地域区長を中心に、地域の方とも災害時の相互協力関係を築いている。	年に2回、防災訓練が実施されています。消防署に届け出るとともに、避難訓練だけでなく通報訓練もおこなっています。消防の立入検査も毎年あって助言が得られており、防災計画も最新のマニュアルが完成しています	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り、介護記録の記入、カンファレンスは事務室内で行っており、ご利用者が見聞きしないようにしている。ご利用者の希望に沿って、居室、リビングの移動を介助している。当然、人生の大先輩への敬意をもってご利用者に接している。	軽度な利用者が増えたことでリスクマネジメントの発生率が増すことを懸念し、職員には注意するよう重ねて指導をおこなうとともに、言葉遣いやノックの仕方、接し方など細部に渡りカンファレンスで話し合っています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から傾聴の姿勢でケアを行っており、ケアマネージャーによる聞き取りもある。その中にご利用者の希望にはできる限り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分を考慮し、ご利用者一人一人のペースを大切にしている。歌を歌ったり、外気浴をしたり、午睡したりと、常にご利用者の希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に新しい洋服を買ったり、ご希望に沿って整髪したり、マニキュアを塗ったり、身だしなみやおしゃれを楽しめる支援をしている。日に複数回お着替えを希望される方にも、都度介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者一人一人の食事の好みを把握し、その日の体調に合わせて提供している。ご利用者に、食事の仕度や片づけを手伝っていただくこともある。旬のものを取り入れるなど、ご利用者のリクエストにできる限りお応えしている。	丑の日には県外から取り寄せた鰻や沼津のオオエビ、敬老会ではお汁粉を堪能しています。誕生日には恒例の手作りケーキが提供され、お正月には「なるべく旬のものと」松茸を購入した事もあります	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一汁三菜を基本に栄養バランスを考えたメニュー、10時と15時にはおやつと水分の補給を行っている。主治医による血液検査では、医学的な視点から栄養状態を把握できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で歯磨きができるご利用者には、食後に歯磨きやうがいをするよう支援している。困難な方は介助で口腔ケアを行っている。また、ご利用者に合わせ、歯科医・歯科衛生士の訪問診療がいらしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムの把握に努め、できる限りトイレで排泄が出来るよう支援している。	「個々のリズムを掴み、排泄はトイレで」との 前理事長の方針を真摯に受け継ぎ、現在も 必要に応じて2人介助で支援しています。な るべく布パンツで日中過ごし、夜間だけ紙パ ンツ対応とすることも同様です	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、乳製品等を毎朝提供している。 便秘になってしまった場合には、医師の指 示により下剤や洗腸などを使用している。そ れでも困難な場合には、看護師により摘便 を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回介助にて個浴を楽しまれている。ミス ト浴もあるものの、ご利用者のほとんどが浴 槽を希望されるため、希望に沿い援助して いる。体調不良時は清拭対応している。	6名の利用者の内5名が湯船に浸かれてい て、季節の菖蒲湯やゆず湯で飲んでもらえ ています。好みのシャンプーやクリームを今 でも使う人、また入浴後のリキッドにこだわりの ある男性利用者もいます	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも眠気や疲れが出ているご利用者 には休息を促し、夜間眠れないご利用者 には安心して眠れるように付き添っている。日 中は日光や外気に触れ、適度に運動し、夜間 の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師、管理者が薬の管理を行っており、 与薬は出来るだけダブルチェックして誤薬を 予防している。どの薬がどのような作用、副 作用があるか、医師、薬剤師の指導を看護 師により周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	押し花やカラオケなど、入所以前からの楽 みの継続を支援している。ボランティアさん によるイベントも日々の刺激となっている。 コーヒーや和菓子など、好みに合わせた品 も提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の心身の状態から、なかなか外出 支援を計画できないでいる。ウッドデッキを 利用した外気浴、日光浴は日々実施してい る。散歩を希望されるご利用者には職員が 付き添って散歩をすることもありますが、なか か日常化できていない。	「自宅が心配だから」という入居間もない利用 者には、植木の水をやりドライブがてら職 員が送迎、昔からよく食べていたというケ ーキ屋にも立ち寄っています。家族との買い物 を楽しみにしている利用者もいます	個別の要望には応えてくださっていますが、 予め年間計画において外出の 計画を備え、外出機会が確かになる ことを期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理されるご利用者がいらっしゃらないため、買い物希望がある場合には、職員が代わりに買い物に行き、後日ご家族に清算をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に沿い、御家族と電話されることがある。また、ご家族からのお電話は、出来る限りご本人につないでいる。コロナ禍以降、テレビ電話も活用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で、居心地の良い環境づくりを目指し配置等工夫している。季節の花を飾ったり、季節に合わせた壁紙づくりを行ってその季節を感じてもらえるよう支援している。音楽のお好きなご利用者にはCDデッキを用意し、いつでも音楽を聴けるように支援している。	掃除専任職員が週3日配置され、利用者だけでなく家族にも「いつも綺麗ね」と評価してもらえています。利用者も一緒に掃除を手伝うことは日常に溶け込み、職員も一緒に手すりを拭いたり気が付けば誰かれとなく参加する文化がみられます	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースは常に開かれており(24時間)、日中はリビングで過ごされる方が多い。個室ではプライバシーが保てるようドアの開閉はご利用者の希望に沿っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	過去のお写真や、当施設にいらしてからの写真を居室に飾っている。ご家族にお持ちいただいた時計を飾ったり、絵画をに飾っている方もいらっしゃる。	ユリのつぼみを散歩しながら採取して部屋に飾った事もあり、「暮らしに彩を」との職員の想いが花開いています。また日光がよく入る居室では、家族がレースカーテンを購入、本人のお気に入りとなっています	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーになっており、できる限り自由に思い思いに動けるよう環境を整えている。		